

九谷焼

歴史

江戸時代初期に、大聖寺藩主前田利治(加賀藩3代藩主前田利常の三男)の命で有田で製陶を学んだ後藤才次郎が、江沼郡九谷村(現加賀市)で窯を築いたのが始まりとされている。

五彩で描いた美しく、力強い大胆な色絵は「古九谷」と呼ばれ、世界的に高い評価を受けている。しかし、約50年ほどで姿を消し、約100年後金沢の春日山窯、続いて小松で若杉窯が始まった。その後、吉田屋窯、宮本屋窯、永楽窯、小野窯等がそれぞれ特色ある色絵を作り出した。

江戸末期から明治初期にかけて活躍した九谷庄三は繊細で華麗な彩色金欄手を広め、産業としての九谷焼に大きく貢献した。

現在では、量産化に対応するため、素地づくり、上絵付けなど分業体制が確立している。

特色

各時代、各窯の特徴ある作風がある。

- 古九谷 …… 黒や赤黒の骨描きに、渋い彩色で素朴豪快
 - 木米 …… 全面に赤塗りで人物などを描く
 - 吉田屋 …… 赤を使わずに緑、黄、紫の塗り埋め手
 - 飯田屋 …… 赤と金欄で中国風の風俗や文様を描く
 - 永楽 …… 金の上に赤の模様
 - 庄三 …… 花鳥山水等を描いた彩色金欄手
- 昭和51年6月8日石川県無形文化財に指定された。



九谷焼陶瓷

历史和特色

九谷焼陶瓷的历史源自于17世纪中期，在九州有田学成制陶的后藤才次郎受藩主之令开始在九谷村(现在的加贺市)筑窑制陶。描绘有大胆图案具有五彩缤纷的特色 的“古九谷”在世界上受到了非常高的评价。但是，此窑仅存了50年，其后废弃消失。100年后，古九谷在金泽的春日山窑、小松的若山窑得到恢复重建。其后吉田屋窑、宫本屋窑、小野窑不断制出各有特色的九谷焼陶瓷。到了19世纪，由九谷庄三制出独特的华丽色彩的九谷焼陶瓷，为九谷焼陶瓷发展成为一项产业作出了贡献。

情報 资讯

主な生産地(主要产地)	金沢市(金泽市)・小松市(小松市)・加賀市(加贺市)・能美市(能美市)
主な製品名(主要产品名)	花器、飾皿、茶器、酒器、食器(插花用器皿、装饰用器皿、茶具、酒器、餐具)
主な生産者(主要生产者)	石川県九谷陶磁器商工業協同組合連合会 (石川県九谷陶磁器商工业协同组合连合会) 〒923-1121 能美市寺井町よ25(能美市寺井町よ25) TEL (0761)57-0125 FAX (0761)57-0320 MAIL rengoukai@kutani.or.jp http://www.kutani.or.jp/rengoukai/